

授業だけでなくあらゆる場面で英会話・西(スペイン)語会話の活用を

— コミュニケーション能力を身につけ、積極的に会話をする態度を育てるには —

前バルセロナ日本人学校 教諭

栃木県宇都宮市立豊郷中学校 教諭 手塚 弘 幸

キーワード：外国語会話学習，国際理解教育，国際交流

1. はじめに

日本国内で英語活動が行われるようになり，新学習指導要領における英語活動のあり方について，注目されているところである。また，子どもたちが社会の変化に対応し，国際社会を生き抜いていくためには，外国語のコミュニケーション能力を育てていくことが重要課題となっている。

バルセロナ日本人学校のあるスペインは，カスティリャー語（いわゆるスペイン語），カタルーニャ語，ガリシア語，バスク語の4ヶ国語を公用語としている。そして，スペイン語は世界23の国や地域で，約3億5000万をこえる人々が日常的に話しており，英語につぐ世界でも利用度の高い言語だと言える。ところが，子どもたちはスペインに在住し，スペイン語を学び日常で使える環境でありながら，子どもたちや保護者のニーズはどちらかというと英語の学習と習得にあり，スペイン語についてはあいさつや簡単な日常会話が話せれば満足してしまい，発展的な会話能力を身に着けたいという願望に欠けているのが現状である。

そこで，平成18年度から英西会話改善会議を立ち上げた。平成19年度には「コミュニケーション能力を身につけ，積極的に会話をする態度を育てる」ことを目的に，「英西会話に関する全体計画」をかかげ，学校の研究テーマとして取り組んでいる。



朝の活動で会話の練習

2. 英西会話に関する取り組み

授業だけでなく，学校生活の様々な場面で英語，スペイン語を使う場면을意図的に設定し，コミュニケーション能力を身に付けさせるために以下のような取り組みを行った。

(1) 英西会話を使用する場面

一日の流れの中で

①朝のあいさつ

「おはようございます」を英西語で

②朝の会，帰りの会で

学級担任裁量で，英会話，スペイン語会話を一部取り入れている。例えば，おはよう，さようならなどの挨拶を英語，スペイン語で行うことや日付を英語やスペイン語で言ったり，1分間スピーチを英西語で行ったりしている。

③朝の活動で

毎週火曜日の朝の活動の時間（10分間）を英会話，西会話の時間とし，隔週で英会話とスペイン語会話の練習を小学部1年生から中学部3年生まで同じテキストを使い，学年や個人のレベルに応じて行っている。内容は，話すことを目的とし，学級担任が子供たちと一緒に取り組んでいる。

活動例としては，自己紹介，買い物体験，好きなもの紹介，クリスマスプレゼントに何がほしいか・・・など様々な場面設定をし，会話の練習をしている。

↓

④授業で

レベルに応じた授業をし、カリキュラムに会話をできるだけ取り入れている。週あたりの英会話の時間は小学部3、4年生が1時間、小学部5、6年生が2時間、中学部1、2、3年生が2時間（中学1年～3年は英会話の他に英語が週4時間）。また、スペイン語会話は小学部1、2年生が2時間、小学部3、4年生が2時間、小学部5、6年生が1時間、中学部1、2、3年生が1時間行われている。

⑤委員会活動で

月1回のペースで業間活動（15分間）の時間に、「英語・スペイン語で話そう」と題して国際親善委員会主体で英西会話の活動（ゲームなど）を行っている。この時間は日本語禁止で、じゃんけんをしたり、誕生日順に並び替えたりして遊びを通して自然に会話ができるような場を設定している。

また、放送委員会により、昼休みや清掃などの放送を英西語で行ったり、英西語の会話例を放送で紹介したり、昼食の時間や下校時間に流す音楽を英西語のCDにしたりしている。



生かす

⑥現地校交流や現地交流で

現地校交流の当日、前日までの準備の中で積極的に会話をしようとする態度を育て、交流活動を通してコミュニケーションの実践力をつけさせる。また、交流を通して学んだことを事後の学習に生かそうとする態度を育てたい。地元の行事であるカルナバルや大学生との交流活動、スペインの日系企業での職業体験、宿泊学習などあらゆる場面で、コミュニケーションを意図的にする場を設定している。

⑦学校行事で

運動会・学芸会の司会、アナウンスをスペイン語放送で行っている。

⑧日本人会主催の行事で

もちつき大会などの日本人会主催の行事中で、スペイン人と会話をするチャンスがたくさんある。もちつき大会で中学生は、漢字でスペイン人の名前を、習字で書くボランティアを行っている。漢字の説明をしたり、日本文化について質問を受けたり、スペイン語が使えることで交流が限りなく広がっていく可能性がある。スペインでは特にマンガの関心が高く、それについて質問攻めにあうこともある。

(2) コース別（習熟度別）授業について

新しく転入してきて英西語が初めての子どもには「初心者コース」、アルファベットや簡単な会話が理解できる子どもは「基本コース」、さらに発展的な内容を学習する「発展コース」の3つに分けて、各学年とも（一部2コース）授業を行っている。クラス分けは、各学期末に「スピーチコンテスト」や「発表会」を行って評価をしたり、本人の希望や授業の様子を考慮したりして学期ごとに入れ替えを行っている。

また、初心者コースには、わかりやすく丁寧に教えるために現地採用の日本人スタッフが授業を行い、初めて日本からきた子どもでも安心して外国語の学習に入っていけるようにしている。一方、基本・発展コースにはネイティブスピーカーの外国人講師が指導に当たり、実践的な会話中心の授業を行っている。



発表会のようす

(3) 英西会話会議

現地採用の英会話講師，スペイン語会話講師と日本人講師，担当教員などが月1回会議を開き，カリキュラムや教材教具の研究，現地校交流や朝の活動のためのテキストづくりなど行って，子どもたちの実践的なコミュニケーション能力アップのために真剣に話し合っている。

3. 成果と今後の課題

(1) 成果

- ◇ 朝の活動では，週1回10分間の朝の活動の中で，英会話とスペイン語会話の活動をしたのは，外国語に触れるよい機会であった。短い時間でも続けることが大切で，効果的であることが実感できた。
- ◇ 業間活動の英西語会話集会では，児童生徒全員の活動はとても活発でたのしくできた。委員会の子どもたちを中心に意欲的に活動できてよかった。
- ◇ 発表会（各学期末1回，年間3回）では，他のレベルの子どもたちの発表が見ることができるので，お互いに刺激になった。回を重ねるごとに工夫が見られ，レベル，発表の仕方ともにバージョンアップしていった。
- ◇ 全体的に，子どもたちが言語学習の楽しさ，重要性に気づいてきたのがわかった。外国語学習に対しての興味関心が以前より高くなり，授業でも意欲的になった。身に付けた語学力を現地校交流などで生かそうとする態度が見られた。

(2) 課題

- ◆ 教材・教具を工夫したり，授業の進め方を工夫したりすることにより，会話中心の授業を目指してきたが，今後さらに会話を意識した授業を進める必要がある。また，授業で力をつけ，さらに交流会等で実践できるような（授業と交流をリンク）学校独自のカリキュラムの工夫が必要である。
- ◆ 現地の幼稚園児から小学校低学年が使う語学学習用のCD-ROMを購入したので利用したい。
- ◆ 転入生（特に日本からで英西会話の学習がゼロの児童生徒）に対しての授業での配慮の仕方が難しい。転入生の補習の時間を授業中にたくさんとってしまうと，他の児童生徒の授業が進まなくなってしまう。今は，転入生に補助的な説明をしながら，少しずつ今までいた児童生徒に追いつかせている。
- ◆ 小学部1，2年生が朝の活動で英会話の練習をしたり，業間の時間に全校で英会話活動をしたりしているが，まだ授業として基本的な内容を学習していないので，ついていくのがきびしい。一方，西会話のほうは，幼稚園でスペイン語やカタルーニャ語を学習しているので，それほど問題はない。英会話について言えば，朝の活動では，プリントの全てを理解する必要はなく英語にふれる機会として考えればいいし，自分に興味がある単語が1つでもわかれば十分である。

4. まとめ

紹介した取り組みは，英西会話学習の改善ために平成19年度から始めたものであるが，すべて新しく始まったものでなく，以前から学校の教育活動としてあったものを整理・統合し，また，カリキュラムを見直し，英西会話の担当講師だけでなく，「全教職員の協力のもと学校生活のあらゆる場面に学習の場を見出そう」とした試みである。簡単単純な活動に見えるが「根気強く継続すること」「意識的に外国語を使う場を設定すること」がとても大切である。以前から保護者や児童生徒から「英語やスペイン語を使って，もっと現地の人々と話したり，交流したりしたい」と会話力アップのニーズが非常に高かった。この取り組みにより，保護者や子どもたちからとてもよい評価を受けているのが，何よりの成果であると考えている。